

# 安全な大豆を生産しましょう

大豆に放射性セシウムを吸収させないためには、土壌の交換性カリ含量を「25mg/100g(乾土)」以上（ただし、新規作付けほ場は「50mg/100g(乾土)」以上）に保つ必要があります。

**福島市では、令和3年産大豆への硫酸カリの無償配布は行いません。今後も基本技術に沿った施肥を行い、生育初期から土壌中の交換性カリ含量を高めておくことが重要です。**

※大豆は、普通大豆（黄肌豆）、黒大豆、青大豆を含みます。枝豆で出荷する分は除きます。

1 施肥により土壌の交換性カリ含量を保持しましょう。

- (1) 基肥はしっかり施肥して下さい。（県基準では、窒素2～3・リン酸8～12・カリ8～12kg/10a です）
- (2) 基肥は耕起前に施用し、作土層全体に混和するよう丁寧に耕耘してください。
- (3) カリ肥料の施用量が多いと大豆の苦土吸収を阻害する場合がありますので、  
土壌酸度(pH)を矯正する際には、苦土石灰を施用してください。



2 土づくりを行いましょ。

- (1) 作土層を確保しましょう。  
普段から深く耕うんすることを心がけ、作土層の拡大に努めましょう。
- (2) 堆肥を施用しましょう。  
堆肥の施用は、土づくりの基本技術です。毎年施用することで土壌の改善につながり、また交換性カリの安定した補給源となります。堆肥は窒素含量を考慮し、窒素過剰とにならないよう適正な量を投入しましょう。

3 交差汚染を防止しましょう。

子実への土壌の付着を防ぐため培土等の倒伏防止対策を徹底し、収穫・乾燥・調製は土の巻き込みや異物の混入を避けるため丁寧に行ってください。

**原発事故後初めて作付けを再開するほ場では大豆が放射性セシウムを吸収するリスクがあるため、硫酸カリの追加散布が必要となる可能性があります。該当する方は下記の問い合わせ先までご相談ください。**

## 問合せ先

県北農林事務所 農業振興普及部  
福島市 農政部 農業振興課

電話：024-521-2608  
電話：024-525-7720